

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	60 - 1	事業名	高齢者福祉事業	担当部課	福祉部長寿課
------	--------	-----	---------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	8	高齢者の安心な暮らしと生きがいを支える	款	3	民生費
		施策の進め方	—		項	1	社会福祉費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	2	老人福祉費
		政策分類	2	住民サービスを向上させる	大事業	4	高齢者福祉事業
	その他（関係法令、要綱等）	シニアクラブ運営事業費補助金交付要綱、「食」の自立支援事業実施要綱、家具転倒防止事業実施要綱、寝具・洗濯乾燥事業実施要綱					
事業開始の背景、経緯等	高齢者等の健康の保持や日常生活の助長を図ることで、安心して生活できる環境を整備することを目的とする。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 健康的な日常生活の維持を図るため、高齢化や認知症の進行により、心身機能が低下した高齢者等に対して、生活上のサービス支援を行う。						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住の65歳以上の市民						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができる。						
	事業を構成する事務事業	① 老人福祉事務事業	現状維持	④ 徘徊高齢者等家族支援事業	現状維持			
	② 家具転倒防止事業	拡充	⑤ 高齢者防犯対策事業	改善・見直し				
	③ 寝具洗濯乾燥事業	現状維持	⑥ 緊急通報システム事業	現状維持				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	予算			54,537	56,473	36,211
決算					57,310	54,409	35,887	
人件費(B)	千円	決算		8,850	12,493	9,611		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		66,160	66,902	45,498		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A シニアクラブ会員数	人	目標	1,435	1,490	1,550	1,610	1,549
			実績	1,435	1,547	1,549	1,536	
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 平成29年度会員数1,536人-82人(休会団体)+(5人新規加入×19クラブ)=1,549人								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様のサービスが提供されている。29年度より、「食」の自立支援事業、ワンコインサービス事業及び在宅医療介護連携事業は、介護保険特別会計の地域支援事業費として整理し直した。
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね目標値を達成しており、着実に高齢者等の生活支援を行うことができている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 急速な高齢化に伴い、現行制度のままでは将来的に財源不足になることが予想されるので、介護予防・日常生活支援総合事業の推進と合わせた事業の見直しが必要である。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 支援を必要としている人に確実に支援をすることができるように、制度の周知及び利用方法の改善につとめる。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 対象要件の見直しや補助事業の統廃合をすすめ、交付申請手続の簡素化を図り、利用者の利便性を向上させる。

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	60 - 2	事業名	高齢者福祉事業	担当部課	福祉部長寿課
------	--------	-----	---------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針		会計	
		分野別項目		款	
		施策の進め方		項	
	まちづくり 行程表	フラッグ		目	
		政策分類		大事業	
	その他(関係法令、要綱等)				
事業開始の背景、経緯等					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか)				
	事業対象	(誰、何を対象にしているか)				
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか)				
	事業を構成する事務事業	⑦ 生涯学習事業	拡充	⑩ 自動車購入事業	休・廃止	
	⑧ 高齢者住宅等安心確保事業	現状維持				
	⑨ 高齢者福祉事業計画策定事業	休・廃止				

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	予算 決算					
	人件費(B)	千円	決算					
	総コスト(A)+(B)	千円	決算					

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	A		目標 実績						
	B		目標 実績						
	C		目標 実績						
	【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
	A								
	B								
C									

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
------	-----------------------	--

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など)
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理)

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性)
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか)

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	①	事務事業名	老人福祉事務事業	款	3	項	1	目	2	大事業	1	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和40年（シニアクラブ）	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 65歳以上の市民等に対し、福祉向上のための活動支援を実施している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい生活を送ることができるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算	19,748 18,921	18,657 18,185	16,985 15,909	14,831	
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
①	単位シニアクラブ運営事業補助金				1,802		千円
②	シニアクラブ連合会補助金				375		千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
シニアクラブ会員数	人	目標	1,435	1,490	1,550	1,610	1,549
		実績	1,435	1,547	1,549	1,536	
		目標					
		実績					
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞							
それぞれの地域において、健康・スポーツ活動、環境・奉仕活動、文化・学習活動、安心・安全活動、交流活動及び組織運営活動を行っている。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

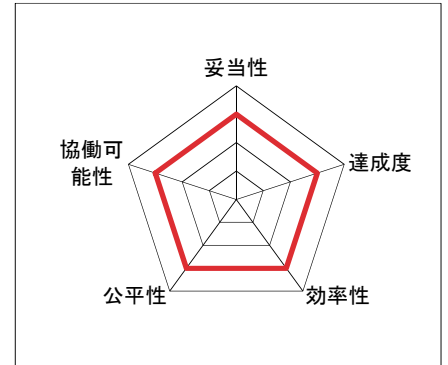
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
少子高齢社会の到来によって、今後も高齢者の増加が見込まれる。したがって、いきがいをもって地域で活躍し、充実した生活を送るための支援が不可欠である。

5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞
シニアクラブ連合会が取り組んでいる会員数の増加、新たな活動への支援のため、啓発活動、補助金制度の改正等により、支援を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
シニアクラブの活動を活性化させるために、長久手市シニアクラブ運営事業費補助金交付要綱を一部改正し、シニアクラブが年間をとおして多種多様な活動を実施することで、補助金の交付金額が変動するように改善を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
高齢者の意欲や能力が最大限に発揮され、かつ、地域での健康づくりや支え合い活動などが創出される事業の実施をシニアクラブ連合会に委託し、高齢者の生きがい活動の場を拡大したこと。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
シニアクラブ連合会の事務局である長久手市社会福祉協議会との連携を深め、役員の担い手不足などシニアクラブ連合会が抱える課題の詳細把握に努めること。平成30年度は役員の担い手不足により、1団体が休会となった。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
シニアならではの経験や知識を生かされる公益的な事業展開をシニアクラブが主体となって事業の計画立案から事業の運営まで行うことができるよう、行政として後方支援をする。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	②	事務事業名	家具転倒防止事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	3
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成17年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象 ・ 手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 ・65歳以上のひとり暮らしの方 ・75歳以上の方のみの世帯 ・身体障害者手帳2級以上の方 ・要介護認定で要介護3以上の方 【内容】 家具転倒防止器具設置費用の9割を助成する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が安心して生活できる環境整備を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		146	153	153	153
		決算		102	136	63	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
①		家具転倒防止事業委託				63	千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者数	人	目標	6	10	13	15	20
		実績	3	12	11	5	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
65歳以上のひとり暮らし高齢者や後期高齢者世帯宅などのタンスや書棚等に、家具転倒防止器具を設置する。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

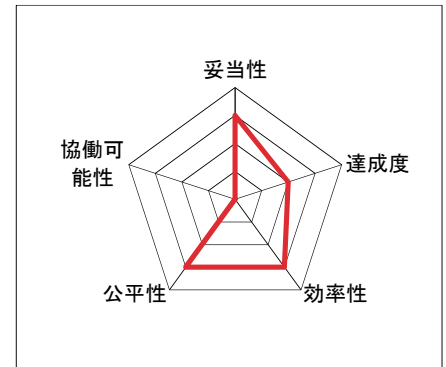
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成28年4月に熊本地震が起り、防災に対する意識が高まった。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
利用状況を精査し、より多くの方に利用いただいているよう引き続き、設置器具等の制度の検討を進める。
(何をどのような状態に改善したのか)
改善なし

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	2
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
実際の取付工事費の1割のみの負担で、地震に対応できる固定金具の取り付けを行うことができる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
大地震が起ると防災に対する意識が向上し、利用者が増加するが、時間の経過と共に意識が低下して利用も減少する。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
事業の利用を促すための周知方法や更なる取付器具の拡大について取り組む。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	③	事務事業名	寝具洗濯乾燥事業	款	3	項	1	目	2	大	4	中	4
事務事業の期間		事務事業開始年度		昭和62年度		終了（予定）年度		—					

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 ・ 65歳以上で要介護3以上の寝たきり状態、又は認知症の方 ・ 65歳以上のひとり暮らしの方 ・ 75歳以上の方のみの世帯 ・ 身体障がい者手帳1～2級の方 【内容】 寝具洗濯乾燥費用の9割を助成
	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が、衛生的で快適な生活を送ることができる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		551	551	551	997
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 寝具洗濯乾燥事業委託					1,033		千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者数	人	目標	52	55	57	60	80
		実績	55	68	100	79	
		目標					
		実績					

<備考：活動の概要（当該事業年度）>
寝具洗濯乾燥費用の9割を助成

4. 事務事業を取り巻く環境変化

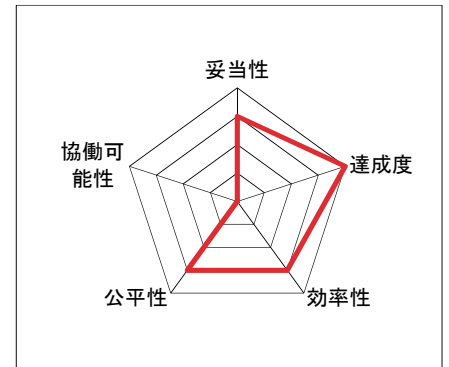
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 急激な高齢化に伴い利用者数が急増しており、行政負担を含めた制度の在り方の見直しが求められる。
--

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 寝具洗濯が必要な時期に実施し、高齢者等が快適な生活を送れるよう今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか) 継続実施することで、高齢者の衛生的な環境整備の支援を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 平成28年度に大幅な利用者の増加があり、事業の認知度が上がったと考えられる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 高齢者の増加に伴い、今後も利用者数の増加が見込まれるため、将来的には財政負担を考慮した要件等の見直しの検討も必要。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 高齢者等が快適な生活を送れるよう今後も事業を継続しながら、事業方法や対象者の要件など検討していくことが必要である。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	④	事務事業名	徘徊高齢者等家族支援事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	5
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成13年度		終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 不意の外出（徘徊）の見られる認知症高齢者や知的障がい者等を介護する家族及び保護者 【内容】 GPS機能のある専用端末を貸し出し、保護の対象者が行方不明になった時の早期発見に役立てる。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	不意の外出の見られる認知症高齢者や知的障がい者等を介護する家族及び保護者が安心して介護できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		194	210	210	344
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>				194	264	323	
① 徘徊高齢者家族支援事業委託						323	千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者数	人	目標	7	4	6	8	9
		実績	2	3	5	4	
		目標					
		実績					

<備考：活動の概要（当該事業年度）>

徘徊癖のある認知症の高齢者等にGPS端末を貸出し、行方不明時に位置情報を調べる。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

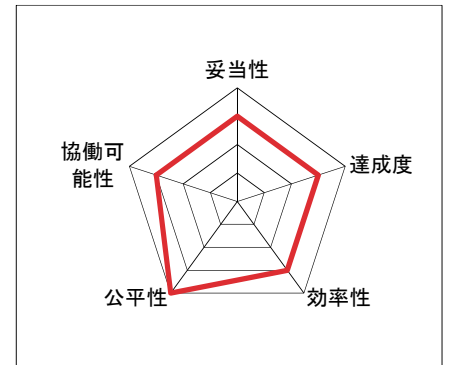
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
介護する家族及び保護者等が安心して介護できる環境を整備するため、今後も事業を継続する。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
利用者の増加に向けた事業の啓発を行う。 他市町の類似サービスの調査、研究を行い、事業内容の見直しを行う。
(何をどのような状態に改善したのか)
平成30年度より委託業者をつばめ自動車からセコムへ変更し、利用者の家族等が自らインターネットを利用して位置検索を行うことが可能となった。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
GPS端末を活用することで、家族が安心して介護することができる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
端末の形状から、携帯して外出することができない場合がある。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
委託先の変更により利便性が向上したため、不意の外出をしてしまう人を見つける方法の1つとして、今後も広報等で周知し、利用促進を図る。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑤	事務事業名	高齢者防犯対策事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	7
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成17年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 ・65歳以上のひとり暮らしの方 ・75歳以上の方のみの世帯 【内容】 玄関前等にセンサーライトを取り付ける費用を9割助成する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者宅の侵入盗等が軽減され、安心して生活することができるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		207 121	207 224	122 273	224
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 高齢者防犯対策事業委託						273	千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用件数	件	目標	18	20	22	25	15
		実績	11	8	15	18	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
65歳以上のひとり暮らしや後期高齢者世帯の玄関前などに、1世帯に1回限り、センサーライト1個を設置する。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

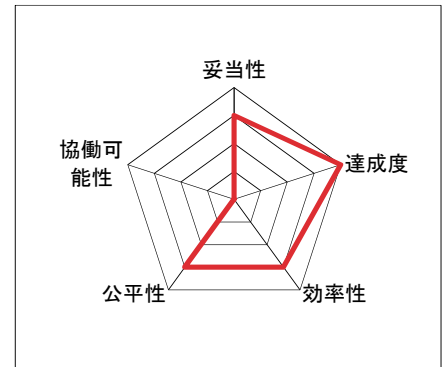
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化、核家族化によって、防犯対策による安心・安全な住宅への需要が高まっている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
利用状況を精査し、より多くの方に利用いただいているよう引き続き、制度の検討を進める。
(何をどのような状態に改善したのか)
改善なし

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
実際の取付工事費の1割のみの負担で、センサーライトの取り付けを行うことができる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
年度によって利用者の増減があるため、更なる事業の周知が必要である。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
事業の利用を促すため周知方法を検討するとともに、事業内容について、センサーライト以外の防犯対策も視野に入れ検討する必要がある。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑥	事務事業名	緊急通報システム事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	9
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成8年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 ・ 65歳以上のひとり暮らしの方 ・ 75歳以上の方のみの世帯 ・ 日中又は夜間において長時間に渡り独居状態になる重度身体障がい者 【内容】 緊急通報装置を貸出し、センターによる定期的な安否確認を行う。緊急時の通報機器に係る費用の9割を助成。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者等の日常生活における不安を軽減し、安心して生活できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		9,548	10,248	10,210	10,210
		決算		9,498	9,907	9,753	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 緊急通報システム業務委託						7,184	千円
② 高齢者住宅緊急通報システム業務委託						1,151	千円
③ 緊急通報システム保守点検委託						870	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者数	人	目標	134	145	155	165	175
		実績	165	182	198	204	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
緊急通報装置を貸出し、センターによる定期的な安否確認を行う。緊急時の通報機器に係る費用の9割を助成。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

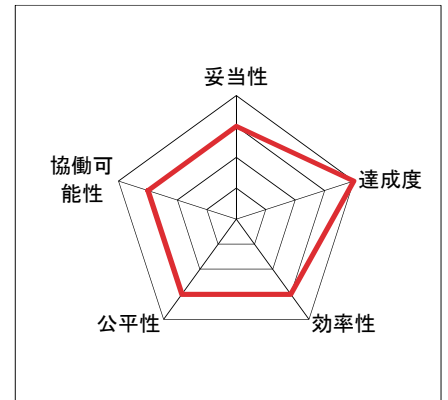
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化、核家族化によって、日常生活上の不安を軽減し、安心して生活できる環境整備への需要が高まっている。 (高齢者実態把握調査対象世帯2,186世帯【平成29年8月1日現在】)

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者等が安心して生活できる環境整備を図るため、今後も事業を継続する。
(何をどのような状態に改善したのか)
継続実施することで、高齢者等が安心して生活できる環境整備の支援を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
緊急通報装置を貸出し、センターが定期的な安否確認をすることにより、ひとり暮らし高齢者等が安心して生活することができる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
対象世帯に対する利用率が低く、まだまだ、必要な方へ事業の周知が届いていない可能性がある。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
高齢者等が安心して自宅で生活できる環境整備を図るために事業を継続しつつ、本人負担金の納付方法などの改善により利便性を図っていく必要がある。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業										
番号	⑦	事務事業名	生涯学習事業		款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	11
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成15年度		終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	【対象者】 市内に居住しかつ住所を有する60歳以上の者（講座開講中に60歳になる者も含む） 【内容】 高齢者の健康増進、生きがいづくり、教養の向上を目的に、福祉の家で年4クールで講座を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者自ら進んで地域に参加し、高齢者同士のつながりを強化するための機会を拡充することによって、生きがいづくり、介護予防、認知症予防につなげる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算	—	—	3,483	3,534	3,346
		決算	—	—	3,239	3,525	—
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 一般事務嘱託員報酬						1,838	千円
② 生涯学習事業講師謝金						1,680	千円
③ 消耗品費						7	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
参加人数	人	目標	—	—	459	373	546
		実績	—	—	381	552	—
開催講座数	講座	目標	—	—	25	34	31
		実績	—	—	25	34	—

<備考：活動の概要（当該事業年度）>
 高齢者の健康増進、生きがい作り及び教養の向上を目的に、福祉の家において、年4クールで、ヨガ、エアロビクス、アクアトレニング等の運動系講座やカラオケ、編み物等の文化系講座を実施する。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)

平成27年度までは社協に事業を委託していたが、平成28年度より長寿課が事業を行うこととなった。また、平成30年度よりパソコン講座のみ生涯学習課が事業を行うこととなった。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>

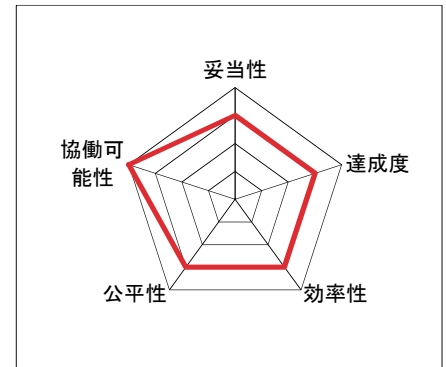
福祉の家を介護予防・健康増進の拠点施設として活用を進めるためにも、運動系講座の拡大を図る。

(何をどのような状態に改善したのか)

平成28年度には、ITルームの改修工事を行い、研修室となったことから、運動を取り入れた講座も実施した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	4



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)

1講座2,000円程度（教材費は別途）で、様々な講座に参加できる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)

受講生が固定化しており、新たな受講生の参加がほとんどいない講座もある。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)

平成30年度は、複数の課で重複していた講座について整理したため、パソコン講座を生涯学習課に移行した。また、人気のヨガ講座の種類を増やしたり、男性の受講を促す目的で男性限定の運動講座を設定し、運動系講座の拡大を図る。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑧	事務事業名	高齢者住宅等安心確保事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	14
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成18年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 ・ 65歳以上の夫婦世帯 ・ 65歳以上の親族からなる二人世帯 ・ 65歳以上の単身者世帯 【内容】 県営山野田住宅内のシルバーハウジングに居住する者に対し、生活援助員の派遣等を行う。
	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等の日常生活における不安を軽減し、安心して生活できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		918	991	1,091	1,121
		決算		915	989	1,092	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 高齢者住宅生活援助業務委託						1,036	千円
② 通信運搬費						40	千円
③ 光熱水費						16	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
利用者数	世帯	目標	24	24	24	24	24
		実績	23	22	24	24	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
県営山野田住宅内のシルバーハウジングに居住する者に対し、生活援助員の派遣等を行った。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

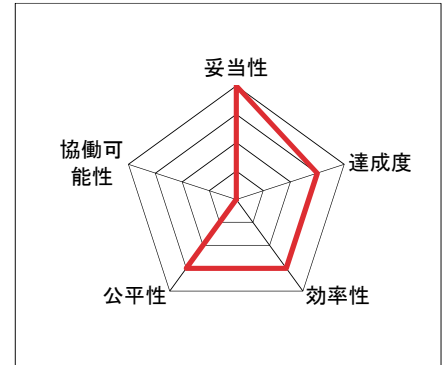
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 入居者の高齢化が進んでおり、日常生活における相談、支援の必要性が高まってきている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 入居者が安心して生活できる環境整備を図るため、引き続き相談、支援体制の充実を図る。
(何をどのような状態に改善したのか) 継続実施することで、高齢者等が安心して生活できる環境整備の支援を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 生活援助員の派遣等により、高齢者が安心して生活することができる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 入居者の高齢化により、相談内容も複雑化しており、支援の在り方を検討する必要がある。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 入居者の高齢化が進む中、入居者が安心して生活できる環境整備を図るため、引き続き相談、支援体制の充実を図る。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業									
番号	⑨	事務事業名	高齢者福祉事業計画策定事業	款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	16
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成28年度	終了（予定）年度	平成29年度								

1. 事務事業の目的

対象・手段	<p>（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉事業及び介護保険事業について ・アンケート調査及び関係者ヒアリング等から必要なサービスを適切に見込み、平成30年度～平成32年度の実施計画を策定し、同期間の介護保険料を策定する ・老人福祉法第20条の8に基づく老人福祉計画及び介護保険法第117条に基づく介護保険事業計画
意図	<p>（対象をどのような状態にしたいか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な高齢者支援サービスや介護サービスの把握を行い事業計画を策定することで、適切な事業を計画的に実施する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		-	3,527	2,510	
		決算		-	2,344	3,121	
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 高齢者福祉事業計画策定委託					2,117		千円
② 高齢者福祉事業計画関連資料配付委託					474		千円
③ 高齢者福祉事業計画策定委員報償金					358		千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
策定委員会開催数	回	目標	5	-	2	5	
		実績	5	-	2	5	
		目標					
		実績					
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞							
<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から2年かけて計画の見直しを行い、平成29年度中に計画策定を完了した。 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

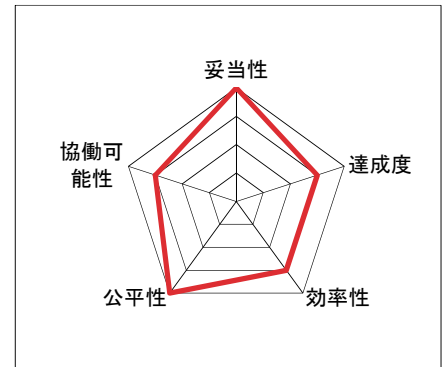
<p>（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年ごとに新たな計画を策定。今回は平成28年度から2年度をかけた見直し。初年度である28年度は、アンケート調査も実施。 ・地域のニーズ及び課題の把握、将来的に高齢者が急増することを見込みいかに地域包括ケアを実現するか。

5. 前年度からの改善状況

<p>＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度から2年かけて計画の見直しを行い、平成29年度中に計画策定を完了する。 ・「一人ひとりに役割と居場所のあるまち」をめざすための各種施策を盛り込んでいく。
<p>（何をどのような状態に改善したのか）</p> <p>市民団体や介護事業所へヒアリングを行い、反映できるものは各種施策へ盛り込んだ。</p>

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	3
公平性	4
協働可能性	3



【アピールポイント】

<p>（活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広く意見を集めるために、2年度をかけて、計画の見直しをしている
--

【ウイークポイント】

<p>（活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護サービス量の見込みや介護保険料の設定について、市民協働での計画策定が難しい
--

7. 今後の方向性

休・廃止

【コメント】

<p>（改善の方法、今後の具体的展開など）</p> <p>本計画は3年に1回の見直しとなるため、次期計画（平成33年度から平成35年度の計画期間）の策定については、平成30年度は休止となるが、平成31年度から再開することになる。</p>
--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者福祉事業										
番号	⑩	事務事業名	自動車購入事業		款	3	項	1	目	2	大事業	4	中事業	17
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成29年度		終了（予定）年度		平成29年度						

1. 事務事業の目的

対象・手段	（誰、何に対し、何をどのように実施しているのか） 長寿課で高齢者福祉・介護サービス提供に係る訪問時等に使用している公用車は、購入後20年を経過しており、買い換え時期の目安である14年を経過していることから、買換えを行う。
意図	（対象をどのような状態にしたいか） 新車を購入することにより、高齢者福祉・介護サービス提供に係る訪問時などに安全に公用車を使用できるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		—	—	845	
		決算		—	—	795	
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 公用車						729	千円
② 自動車損害保険料						35	千円
③ 手数料						30	千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
車両購入	台	目標	—	—	—	1	
		実績	—	—	—	1	
		目標					
		実績					
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞							
入札により1台の車両購入を行った。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

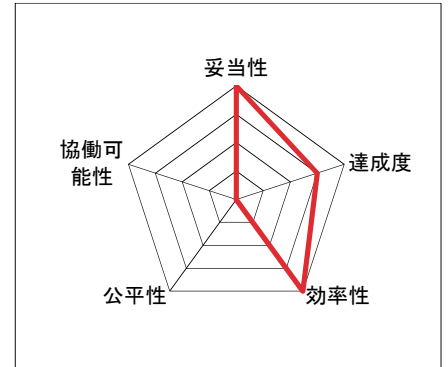
（制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など）

5. 前年度からの改善状況

＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞
※新規行政評価対象
（何をどのような状態に改善したのか）
—

6. 評価

項目	評価
妥当性	4
達成度	3
効率性	4
公平性	—
協働可能性	—



【アピールポイント】

（活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど）
—

【ウイークポイント】

（活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど）
—

7. 今後の方向性

休・廃止

【コメント】

（改善の方法、今後の具体的展開など）